



このコーナーでは、職員の趣味や特技を紹介します。今号は谷病院長補佐（教育・研修・地域連携担当）に寄稿いただきました。



上段写真：ワシントンDC柔道大会にて 左側が私

下段写真：NIH Judo Clubの柔道家たちと（後列向かって左が私、その前が私の長男と長女）

グローバル化時代にご生きる日本伝統文化

徳島大学医学部時代に柔道経験のある私は、着る機会があるかどうか分からない柔道着を米国留学時の荷物の中に詰め込んでいきました。しかし、その機会は到着後2週間後に早速訪れました。留学の書類手続きに訪れたNIHでNIH柔道クラブの張り紙を見つけた私は、その夜に電話をかけてたどたどしい英語で入部の申し込みをしました。研究より先に始めたのが柔道だったのです。19歳から72歳まで25名程の柔道家たちの中で唯一の日本人であった私は、皆から大歓迎を受けました。柔道場には嘉納治五郎先生の写真が飾られており、「礼」の一言で稽古は始まり、「イチ、二、サン、はじめ！」と稽古中の言語はすべて日本語です。稽古の後半は私の得意技を指導する時間を設けてくれました。乏しい語彙力とつたない英語でも皆一所懸命耳を傾けてくれました。私のJapanese Englishにあからさまに困惑していた研究室の連中の態度とはえらい違いでした。

それから毎週火曜日の夕方になると現地の小学校に通う子供2人を連れて、高速道路で片道40分の距離にあるNIHの柔道場まで通いました。2年間の留学を終える帰国時には、記念にとワシントンDCの柔道大会に出場しました。対戦相手が20歳前後の連中ばかりであり、30歳代後半の私にはかなりきついトーナメント戦となりましたが、柔道クラブの仲間たちの声援を受け、何とかメダルをもらって2年間の米国柔道生活に有終の美を飾ることができました。

留学することで英語力は間違いなく上達するものですが、近づくことはできてもネイティブを超えることはまず不可能です。これからのグローバル化の時代に英語力を高めることは大切ではありますが、日本の伝統文化の習得にも努め、彼らには負けない和の力をプラスすることで彼らと真に対等な付き合いができるのではないかと、ということを感じさせられた私の留学経験でした。

病院長補佐（教育・研修・地域連携担当） 谷 憲治

趣味

今号では、このコーナーについても職員の趣味や特技を紹介することとし、安井病院長に寄稿いただきました。



スペインの修道院にて

私が米国留学中に恩師のO教授がロサンゼルスに来られ、私のアパートに泊まってゆかれました。東海岸に行く途中に立ち寄ったとのことでしたが、教室員がアメリカでどのような生活をしているかを視察に来られたのだと思います。O教授は学問には大変きびしい人で、日本にいる時は近寄りがたい存在でしたが、アメリカでお会いすると意外な側面をみることができ嬉しく思いました。空港まで迎えに行き、そのまま南カリフォルニア大学に向かいました。私の研究室を案内したあとchairmanのN教授と1時間ほど仕事の話をされました。アパートに向かう車の中で研究室の感想を聞くと「壁にスペインの絵が掛かっていたね。あれはN教授の趣味か？」という質問が返ってきました。私はそれまでその絵については意識したことがなかったので答えることができませんでした。

夕食後Napa Valleyのワインを飲みながらO教授と話しました。「君の趣味は何かね」「特に趣味といえるようなものはありません。まあゴルフくらいですね」「・・・・・・」「ゴルフはいけませんか？」「いや、悪くはないがゴルフは4人そろわないとできないよね。今のうちに一人でできる趣味を探しなさい。」その先は酔っぱらったので何を話したかは覚えていません。

翌日はカリフォルニアらしい良い天気でした。空は青く透き通り、輝く太陽がまぶしいゴルフ日和でした。「さて今日は何処に行きましょうか」「ビバリーヒルズのアートギャラリーに行きたい」O教授にはお目当ての店があったようですが、その店とは別の店で1枚の絵の前で釘づけになりました。それはJoan Miroの版画で20万円程の値段がついていました。「これは本物だ、素晴らしい」私の眼には熱帯魚の抽象画にしか見えませんでした。O教授は大変気に入られたようです。そしてその版画をその場で衝動買い(?)されたのです。「スペインは天才の国だ。色彩が素晴らしい」空港に向かう車中でO教授は大変満足気でした。「女房が何というかなあ」と少し心配そうにされていたのが可愛くみえました。

帰国後の休日にO教授の自宅にご挨拶に行きました。普段着のO教授は大学で見るより穏やかで奥様にも優しく seemed でした。応接室には油絵が数枚か並べられていましたがJoan Miroの版画は見当たりませんでした。暗い色調の油絵ばかりで「これはどなたの絵ですか？」と聞くと「暇つぶしに私が描いたんだよ。素人には色と光が出せないんだ」と恥ずかしそうに答えられました。自分ひとりでできる趣味をもつとは、こういうことだったのかと納得しました。皆さん、こっそり絵を描きましょう。

病院長 安井 夏生

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画部門（bsoumussl@tokushima-u.ac.jp）までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。





橋本教授と看護師さん

橋本一郎教授就任パーティーを開催しました！

去る平成26年12月1日、橋本一郎先生が形成外科・美容外科の教授に就任されました。それに伴い、平成27年1月16日に郷里にて「橋本一郎教授就任パーティー」を開催しました。病棟・手術部・外来のみなさんも多数参加して頂き、大いに盛り上がりました！また、二次会ではジャスパーにて、バンドのメンバーと共に自慢のギターを華麗に演奏されていました。

形成外科・美容外科 山崎 裕行

食道・乳腺甲状腺外科&呼吸器外科

丹黒 章教授 還暦祝賀パーティ

平成27年1月25日、「渭水苑」にて今年4月に還暦を迎えられる丹黒 章教授の「還暦祝賀パーティ」を開催致しました。この日のために、丹黒教授に内緒で、医局員が企画し、盛大に執り行われました。『丹黒先生、還暦おめでとうございます。これからも益々のご健勝、ご活躍をお祈り致しますとともに、私たちに、これまで以上の御指導、御督励のほどお願い申し上げます。』

食道・乳腺甲状腺外科 西野 豪志



田中克哉教授就任記念講演会・祝賀会を開催しました

平成26年10月1日に、田中克哉先生が麻酔科の教授に就任されました。そこで、平成27年2月15日に徳島グランヴィリオホテルにて田中克哉教授就任記念講演会・祝賀会を開催しました。学長をはじめ、多くの方々にご出席いただき、盛大にとりおこなうことができましたこと、こころより感謝しております。

麻酔科 角田 奈美



消化器・移植外科&小児外科・小児内視鏡外科

新年会を開催しました！

平成27年1月12日に消化器・移植外科と小児外科・小児内視鏡外科の合同新年会をグランドエクシブ鳴門にて開催しました。居村特任教授、吉川助教、島田教授が挨拶をされ、乾杯は池本が務めました。今年もたくさんの家族、子どもたちが参加し、にぎやかな会となりました。また、学生さんたちも参加してくれました。最後は森根講師の万歳三唱で締めくくりとなりました。

消化器・移植外科 池本 哲也



平成27年度 新規採用者内定式が行われました

平成27年1月27日、日垂メディカルホールで平成27年度新規採用者の内定式が行われ、看護部新規採用予定者56名のうち52名の参加がありました。香美副病院長、木田看護部長の挨拶の後、新規採用者の皆さんは徳島大学病院の看護を習得するための準備としてレディネスと社会人基礎力の調査を行いました。1項目ずつ丁寧に書いている真剣な眼差しに、初々しさを感じました。その後、諸手続きの説明を受け、白衣のサイズ合わせを行いました。

看護部 久米 博子

第9回当直スキルアップセミナーを開催しました！

卒後臨床研修センターでは、3月10日に「第9回当直スキルアップセミナー」を開催しました。これは、平成25年度から始めた企画で、毎月、各診療科や他の医療機関に講師をお願いし、当直における診断・治療のポイントを学んでいます。今回は、整形外科の宮城特任助教、総合診療医学分野の谷教授ほか、徳島赤十字病院脳神経科の仁木先生にご講演いただき、救命や機能改善に役立つ適切な判断のための知識を身に付けることができました。

総務課卒後臨床研修係 兒玉 実和

